



～繁殖成績を向上するために～

和牛繁殖経営では、繁殖成績を向上させることが経営を左右する大きな鍵となります。その為には、発情を発見して種付けをするという和牛繁殖生産者にとって最も基本かつ重要な作業を徹底できるかにかかっています。

①運動の実施と発情の発見

分娩後はパドックや放牧地で運動をさせて下さい。運動をすることによって子宮の回復が早くなり繁殖成績の向上につながります。また、スタンディングによる発情兆候の発見がしやすくなり、受胎率の向上につながります。

※発情の観察は少なくとも1日2回行いましょう。

※分娩後80日以内の受胎を目標としましょう。その為には、分娩後最初の発情を見逃さずチェックし、次回発情から授精できるように記録をすることが大切です。

②分娩前の適切な栄養管理

分娩3ヶ月前から胎子は急激に成長します。それに見合うだけの栄養を母牛に給与することが必要となります。妊娠末期では通常の3割増しの栄養が必要になるといわれています。粗飼料の栄養価にもよりますが、通常1日当たり配合飼料2kgが、増し飼い分として必要です。注意する点は、子出しの良い牛、初任牛、受胎している種雄牛によっては、過度な栄養を与えると難産につながりますので注意が必要です。

○妊娠末期の栄養が不足すると

ア、子牛の胸腺（免疫を作る器官）が十分に発達せず、免疫力の弱い子牛が生まれやすくなり、下痢や肺炎を発症する確率が高まります。

イ、繁殖機能に、十分な栄養がいかず子宮回復の遅れに伴い、初回発情の遅れや、繁殖障害につながります。

③分娩後の適切な栄養管理

授乳期間中は泌乳に対する栄養補給と同時に、繁殖機能に対する栄養補給が必要です。自然哺乳では特に、分娩前からの増し飼いを2ヵ月程度は続ける必要があります。母牛の栄養不足は、繁殖障害はもちろんのこと、異常なミルク産出につながりこれにより子牛の下痢を誘引することがあるので注意が必要です。

※お困りの際は、畜産部までご連絡ください。

お問い合わせ先：畜産部 27-7840（JA家畜市場内）

